

会 議 録

会議の名称	令和3年度第1回上尾市図書館協議会	
開催日時	令和3年8月2日（月）午後1時40分から午後4時20分まで	
開催場所	上尾市図書館本館2階 集会室	
議長(委員長)氏名	代島常造	
出席者(委員)氏名	須賀聡、北川悦子、岸清俊、山田浩一、佐々木智美、加藤寛子、宮内礼子、大谷内久美子、代島常造、若松昭子、清水松代、高村裕美	
欠席者(委員)氏名		
事務局(庶務担当)	小林部長、清水次長、事務局、事務局、事務局、事務局、高橋主査、吉川主査、鈴木主任、朝見主事、若林主事	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 報告 ①令和2年度上尾市図書館事業報告について ②令和2年度第2次図書館サービス計画の進捗状況について ③令和3年度上尾市図書館事業概要について (2) 議題 ①第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について	別紙「議事の経過」のとおり
議 事 の 経 過	別紙「議事の経過」のとおり	傍聴者数 6名
会 議 資 料	上尾市図書館要覧（令和3年度） 資料1-1 令和2年度第2次上尾市図書館サービス計画の進捗状況について 資料1-2 令和2年度第2次上尾市子どもの読書活動推進計画の実施状況について 資料2-1 令和3年度図書館事業概要（図書館） 資料2-2 令和3年度子どもの読書活動支援センター事業概要（支援センター） 資料3 令和3（2021）年版 第3次上尾市図書館サービス計画事業計画及び進捗状況報告書（案） 資料3【補助資料】 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 年 月 日 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> 令和3年9月9日署名済み 議長（委員長）の署名 _____ </div>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
	報告① 令和2年度上尾市図書館事業報告について
議長	報告①について意見、質問はあるか。
A委員	「上尾市図書館要覧」の29頁のオンラインデータベースの利用状況について、今までより広い範囲で利用状況が掲載されていてわかりやすくなっている。が、「エ デジタル化資料送信サービス」は国会図書館のサービスだと思うが、平成29年度の数字は拾えるはず。また、「イ 聞蔵Ⅱ」は朝日新聞のもので、地域版がオプションになるが、この地域版がみられるようになっているのか。毎日新聞や読売新聞もオンラインのデータベースを公開しているので今後導入を検討してほしい。
事務局	「エ デジタル化資料送信サービス」の実績については、本来であれば集計できるものであるが、私どもが今提供できるのは、平成30年度からのものとなっている。ご容赦願いたい。また、地域オンラインについては引き続きサービス等で充実できるよう検討していきたいと考える。
議長	24頁に開館日数が掲載されているが、折れ線グラフの表に「新型コロナウイルス感染拡大防止で臨時休館」と表記があるが、このようなことは滅多にないことなので正確な休館日数を沿革などに記載してはどうか。
事務局	正式なコロナによる休館日数について、データとして管理しているのでご指摘を踏まえ、今後の統計資料の表示の仕方として改善を図っていきたいと考える。
B委員	28頁「(12) 障害者サービス利用状況 イ 貸出サービス」の音楽CD(郵送)と宅配図書のサービスはどのような障害者に行っているのか。
事務局	視覚障害者以外、肢体不自由等々で外出が困難な方に対して、職員が車で宅配する。
B委員	肢体不自由の方がほとんどか。
事務局	そのとおり。
副委員長	21頁と25頁を比べて見ると、視聴覚資料は本館と大石分館のみが所蔵しているが、実際の貸し出しはまんべんなくされている。どうしてか。
事務局	リクエストが入って、受け渡し館が決まると、どの館でも貸し出しできる。
副委員長	視聴覚資料は本館と大石分館で重複しておらず、それぞれがバランスよく所蔵しているのか。
事務局	本館の方が数は多いが、重複しているものはほとんどない。
C委員	2点ある。一つ目、15頁、ブックスタートで4か月児に配布してから、その後小学校1年生になるまでの間にもう1回ぐらい、例えば2歳半検診などで配布することは検討できないのか。 二つ目、19頁のオの項目について、コロナ禍であったことは分かるが、せっか

	くの月一回の企画であるのに1回しか開催できていない。他の何らかの手立ては考えられなかったのか。
事務局	ブックスタートとセカンドブックスタートの間における事業展開については、今のところ考えはないが、事業等いろいろ検討していきたいと思う。おやこでえほんサロンや読み聞かせ事業は、開催ができなかったが、今後は新しい生活様式に対応した事業を考えていきたい。
	報告② 令和2年度第2次図書館サービス計画の進捗状況について
議長	報告②について意見、質問はあるか。
D委員	資料1-1の7頁「③施設サービス」の団体貸出、リクエストサービスについて、ともに1件の利用であるようだが、どのような周知を行ったのか。また、この利用の1件とは同じ施設の同じ方の利用なのか。
事務局	高齢介護課で所有する情報において、このようなサービスがあることの呼びかけをした。その他、代理でケアマネジャーが自宅にいる要介護者に代わって借りることができるサービスなどがあるが、なかなか利用者が増えていない。PRは他部署を通して行った。
D委員	なぜ、このリクエストサービスが浮上したのか。
事務局	施設にいる方は自分で本や新聞の情報を得ることが難しいので、ある程度こちらから提案する形で本の環境を広げられないかとのことで始めたサービスである。
A委員	資料1-1の6頁「青少年イベントの開催」の進捗状況が一部達成とあるが、一方で資料1-2の4頁「青少年向けサービスの向上を図る」では未実施とある。この違いは何か。
事務局	ブックトークについては、コロナ禍において行われなかったが、(資料1-1)「誰かに伝えてみませんか」はツイッターを使った読書案内ができたことから一部達成という評価をした。(資料1-2)ブックトークについては実際に学校に出向いて行うことができていないことが記載されている。
A委員	「誰かに伝えてみませんか」の企画は、青少年イベントの位置づけではないのか。
事務局	図書館業務と読書活動支援業務とを分けて精査していたが、疑義が生じている。もう一度精査したい。
副委員長	資料1-1「NDC10版の採用」について、もし、採用となるとラベルや目録などを変えなければならないと思うが、それも全部含めて検討したのか。
事務局	はい。システムに全部入れ込み、上尾市独自の部分とNDC10版で変わった部分を変えた。それまで8版を使用していたが、9版を飛ばして10版の採用のためハードルが高かったので、採用については慎重に検討した。
副委員長	変更作業量は膨大になると思うのだが、分類の大きな枠組みは変わっていないので、実際のラベル張り替え作業はあまりなかったということか。
事務局	かなりの量があったので、蔵書点検の期間を延ばしてラベルの張り替えを行った。

副委員長	分類変更には多くの労力と時間がともなうので、それに見合うか否かの判断も必要になる。10版への変更は重要で大きな決断だったと思う。 「今後の方向性」で、「引き続き、現行のシステムを採用する」とあるが、これと10版との関係性はどのようなものか。
事務局	平成29年度にNDC8版から10版に変更し、背ラベルの変更を完了している。MARCについては、検討の結果、現行のTRCMARCを引き続き採用することとする。
副委員長	「引き続き、現行のシステムを採用」という記述は、10版採用を検討したがそれはやめにして旧版のままにした、というようにも読み取れる。説明がわかりにくい。
議長	「現行システムを採用する」とは表記があいまいなので少しわかりやすくしたほうがいい。検討してほしい。
事務局	表現を変更する。 休憩（5分）
	報告③ 令和3年度上尾市図書館事業概要について
議長	報告③について意見、質問はあるか。
B委員	今の図書館の体制については民間委託をしていると思うが、市の職員と実際の利用者とのやり取りを行う委託の職員の連携はどうなっているか。
事務局	連携については、受託会社と図書館において毎月1回定例的な会議を設けている。それ以外にもスキルアップにつながる研修等を行うよう指示をしている。また、上尾市が新規に導入するサービスや通常行っているサービスであってもやり方を変えるような場合についてもできるだけ情報共有し、市の職員が受ける研修にも参加してもらい、知識、情報を仕入れて共有する方法をとっている。
議長	研修はとても大事なことである。県の図書協会も市の職員だけではなく委託の職員も研修参加を受け入れている。
	議題① 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について
議長	ここまで、報告として進めてきたが、この後からは、協議ということで皆様の意見をお願いします。
A委員	事業計画の1頁「図書館資料の収集等」の項目で、郷土資料や行政資料については電子書籍では賄えないと思うが、これについては、別個に考えてほしい。それと22頁「若者の自立支援」の概要に書かれている「主な手段」は内容が違うのではないかと思う。むしろ、26頁「学習活動環境の整備」の内容になるのではないか。
事務局	1点目については、毎年事業計画の中で年度ごとに違うテーマを掲げていきたいと考えていたが、発言の通り電子書籍以外にも取り得る手段はある。持ち帰って担当を含めてもう一度整理したいと思う。もう1点については、内容の入り繰りについて、先ほどと同様もう一度担当と整理する。
E委員	進捗管理シートの作成について、評価とは何を基準にして数値が出るのか、アン

	ケートを取るのか。基準があれば説明してほしい。
事務局	評価の基準について、必要に応じてアンケートを取る。このアンケートの取り方は全体的にサービスとして取るのか、ある一定のイベントや講座ごとにとるのかケースバイケースと考える。
議長	事務的なことであるが、各シートの目標は年度ごとに変わることで間違いないか。
事務局	想定している内容としては、年度ごとにそれぞれ適切な打ち手などを「主な手段」に掲げる。それに見合った目標を上げていくことになる。場合によっては継続項目として同じような目標が立つ場合もあるし、今年掲げた目標が年度内に完了していれば新たな打ち手、手段が上がってくるので、当然、目標が変わってくると認識している。
議長	第2次の進捗状況管理表の形はなくなって、今後はこの資料3の形に置き換わるのか。
事務局	そのとおり。
議長	子どもの読書についても同様か。
事務局	資料3の21頁「子供の読書活動支援」のシートで扱うが、細かい部分の報告は一定の補助資料が必要と考える。
C委員	素晴らしい資料がたくさんあり、今年度から新たな気持ちが表れていいことだが、図書館協議会のための資料作りに相当な時間が取られていると思われる。更にその評価の達成に追われてしまう。それも大切であるがそれよりも、今日はどれくらい来館したかなどには全然気が向いていない。新聞ひとつにおいて図書館要覧12頁、たちばな分館と上平には新聞がないことや資料1-1の1頁でも平成30年度、31年度に対応を検討すると3年も4年もかけて検討している。この評価表の作成に時間を取られすぎてしまうのは申し訳ない。
議長	業務量的には従来と今のものではどちらが大変なのか。
事務局	全体的な業務量としては、明らかに今回からの第3次上尾市図書館サービス計画のほうが簡便である。それ以上に自分たちで方向性を見ながら計画を立てることで目標が明確になる。事前の準備として労力が減ると思う。もちろん評価に当たってはきっちりやっていたいかなければならないと考えている。
D委員	令和3年から7年まで、「方向性」を叶えるために年度ごとに目標を組み立てていくのか。
事務局	毎年「方向性」に向けてやるべきことは変わってくることもあるし、積み重ねていくこともある。図書館側から皆さんに分かりやすく、また、自分たちにも具体性を持った内容として落とし込むことによって実効性を高めていく。年度を重ねて積み上げていく計画となる。
D委員	「方向性」は変わらないのか。
事務局	ここに載せている「方向性」とは、第3次上尾市図書館サービス計画の第3章の「サービス計画項目」から持ってきているのでこれは変わらない。過去2年間、

	<p>議論してきた上尾市図書館のあり方から抽出した内容を計画化したものそのままである。</p>
F委員	<p>資料2-2 「青少年サービスとの連携事業」の「手紙で伝えよう 私の読書」は年間1回だけか。</p>
事務局	<p>昨年度も同事業を行っていて大変良かったので今年度も続けて計画している。できればこの事業はこの先も続けていきたいと考えている。</p>
F委員	<p>ツイッターで紹介されていたが、定期的にこういった紹介文を載せて、読書活動支援センターのツイッターを見てもらうのも一つの手だと考える。 それから緊急事態宣言下に入り、将来の読み聞かせのボランティア育成という意味を含めて小中学校間で zoom などを用いて読み聞かせをしあう活動が出来たらいいと思う。中学生が小学生に読み聞かせをする、またはその逆、小学生が中学生に向けて読み聞かせをすることで関係がよくなる。大人から子供へも大事であるが子供から子供へというのも刺激になっていいと考える。</p>
事務局	<p>昨年度、コロナ禍の中、オンラインによるお話し会の検討を行った。課題として、絵本などの著作権の許可が必要であり、2社から許可をもらったが実現に至らなかった。zoom などを使うことについては著作権が関わることから意見として受け取り、代替案を検討していきたい。</p>
G委員	<p>電子書籍はいいと思う。本は物質であり一つの資源ととらえると、出版された後最終的には廃棄される。電子書籍になるとサービス化されるので、モノからサービスになることが環境として地球に貢献する。また、施設の老朽化から新しい施設にするときに太陽光パネルの設置や節電型の設備など環境に配慮した省エネ施設を検討してほしい。また、図書は運ぶときに排出ガスを出すので電気自動車（EV）や水素の車両の購入をすることで新しい図書館のアピールになると思う。</p>
副委員長	<p>「進捗状況報告書(案)」について、これまでの表よりわかりやすいが、「方向性」があまり具体的ではなく、とても抽象的な表現になった。5年間かけてどこが到達点なのかが見えにくい。どこかの段階で見えるようにしてほしい。</p>
D委員	<p>8頁「レファレンスサービス」は大事な部分である。子供の読書活動にも反映させてほしい。子どもの「今読みたい」という気持ちに答えられるような本がずっと出てくると子どもの読書意欲が増すと思う。 それから各図書館のカラーがあると面白い。例えば、環境に配慮した図書館であるとか、社会問題に強いとか、古典に強いとか、美術に強いなどカラーがあると図書館巡りなどができていいと思う。分館事業の活性化につながれたらいいと思う。</p>
議長	<p>2頁や15頁にセカンドライフコーナーを充実させると表記があるが、これは高齢者を切り離している。そのコーナーに行くが高齢者であると見られてしまい、行きにくい。この表現でいいのか。</p>
事務局	<p>担当内でもアクティブシニアにも利用してもらえる選書を意識していきたいという意見が出た。ご意見のとおり、名称を含め、高齢者が利用するにあたって抵抗感を持たれないコーナー作りを考えていきたい。</p>
議長	<p>協議会としてはこの方向で進めてよいか。</p>

委員

異議なし。

以 上